

ダイフクPROFILE
2026

会社概要	1
マテリアルハンドリングとは	2
社是・経営理念	3
長期ビジョン・中期経営計画	4
6つの事業とダイフクの強み	8
主要製品	10
知的財産活動	20
先端技術の活用	21
業績推移(連結)	22
株式情報	27
サステナビリティ	29
コーポレートガバナンス	35
役員一覧	38
沿革	42
グローバル展開	52
国内拠点・海外支店	53
海外現地法人	54
情報開示	56
業界情報	56
日に新た館	57

(注)1 文中の金額：単位未満の端数を切り捨て
2 文中のパーセンテージ：一部四捨五入し、合計が100%となるよう表記

事業	マテリアルハンドリングシステムの総合メーカー 物流システムに関するコンサルティングとエンジニアリング および設計・製造・据付・サービスなど
商号	株式会社ダイフク (Daifuku Co., Ltd.)
設立	1937年5月20日
資本金	318億65百万円(2025年12月31日現在)
代表者	代表取締役社長 寺井 友章
連結従業員数	11,417人(2025年12月31日現在)
本社所在地	大阪府大阪市西淀川区御幣島3-2-11 東京都港区海岸1-2-3 汐留芝離宮ビルディング
上場証券取引所	東京証券取引所プライム市場(証券コード:6383) 「JPIXプライム150指数」・「JPIX日経インデックス400構成銘柄」 に選定
格付	発行体格付 A+[安定的] 短期債格付 a-1 (株式会社格付投資情報センター (R&I))
2025年度業績	(2025年1月1日～2025年12月31日)
連結売上高	6,607億24百万円 海外売上高比率 73% サービス売上高比率 27%
営業利益	1,008億16百万円
年間配当金	1株当たり78円



本社(大阪)



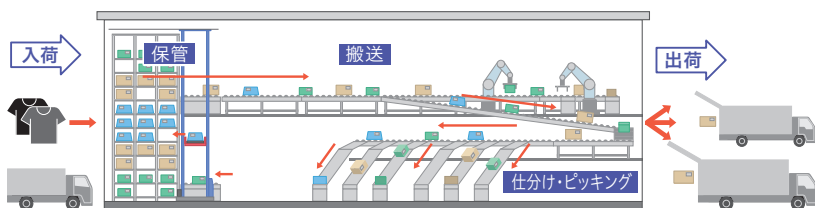
東京本社

マテリアルハンドリング(マテハン)とは、「モノを効率的に保管、搬送、仕分け・ピッキングする」ことです。それらの機能を持つ機械設備と、設備の動きを制御・管理するソフトウェアを組み合わせ、スムーズなモノの流れをつくる仕組み(自動化技術)を「マテハンシステム」と呼びます。

マテハンシステムを活用することで、重労働や反復作業を軽減でき、新たな価値を生み出すことができます。

ダイフクは、保管、搬送、仕分け・ピッキング用の主要製品を自社生産する世界有数のメーカーとして、またシステムインテグレーターとしてお客様の多様なニーズにお応えしています。

配送センターのイメージ図



古代ギリシャ時代に発祥、機械学のベースとなる



動力を人力に頼っていた時代のマテハン
(巨石の運搬)

出典: 運搬機械の前衛 ダイフク

人類にとって、重い荷物をどう運ぶかは永遠のテーマです。

人間が定住を始めて以降、長く人力や牛馬の力に頼っていましたが、古代ギリシャ時代に数学や力学が盛んになる中で、「重いモノを動かす学問」として機械学が発祥しました。マテハンが、機械工学の源となったわけです。

その後、産業革命を通して蒸気・電気などのエネルギーを得て道具が設備に発展、20世紀後半にはコンピュータと結びついてより進歩しました。

〈社是〉



今日の「われ」は
昨日の「われ」にあらず
明日の「われ」は
今日の「われ」とどまるべからず

〈経営理念〉

モノを動かし、心を動かす。

ダイフクは、マテリアルハンドリングを核とする「モノを動かす技術」で、心豊かに生きられる社会を創造します。

私たちは、

- (1) 人と環境への負荷を最小化し、人権の尊重と責任あるものづくりを実践することで、持続可能な社会の実現に貢献します。
- (2) 世界のお客様と誠実に向き合い、革新的技術と最適最良のソリューションでスマート・ロジスティクスを実現します。
- (3) 多様性を尊重する自由闊達な企業風土のもと、一人ひとりが変革に挑戦します。同時に、経営基盤を強化し透明性の高いグローバル経営を行います。

〈グループ行動規範〉

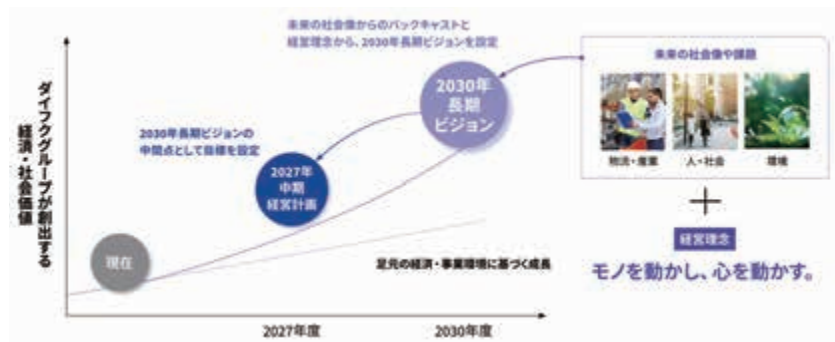
基本姿勢

- ・私たちは、法令・社会規範や倫理に照らして、正しく行動します。
- ・私たちは、事業活動のあらゆる局面において、なによりも安全を優先します。
- ・私たちは、「日新」の気持ちを常に忘れず、たゆまぬ挑戦と変革を続けます。

▶ 長期ビジョン「Driving Innovative Impact 2030」および「2027年中期経営計画」コンセプト

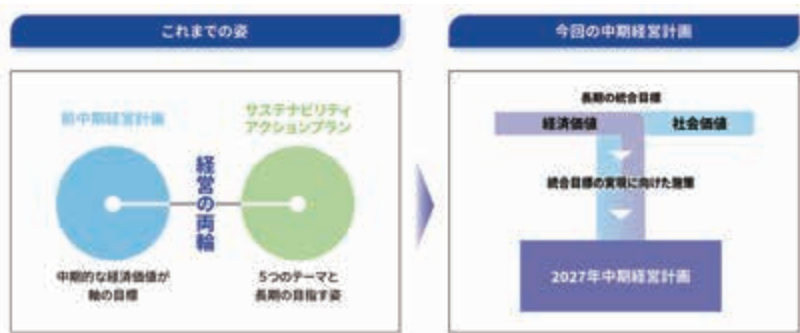
短期志向から長期・バックキャスト志向へ

これまで、足元の経済・事業環境に基づく中期経営計画を策定の上、事業の成長を実現してきました。今回は未来の社会像や課題を想起し、まず2030年のありたい姿を長期ビジョンとして設定した上で、中間点である2027年中期経営計画を策定しました。



経済価値と社会価値の両立へ

これまで経済価値を追求する「中期経営計画」と社会価値を追求する「サステナビリティアクションプラン」を経営の両輪として推進してきました。2027年中期経営計画では、経済価値と社会価値双方の視点を踏まえた統合目標を設定し、統合目標の実現に向けた施策・ロードマップを策定しました。

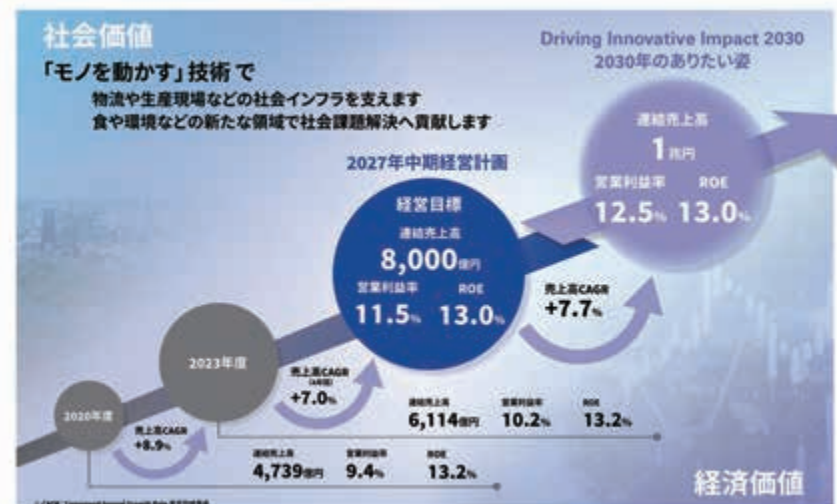


長期ビジョン Driving Innovative Impact 2030

『未来を見据えた新たな発想での取り組みを強化し、ステークホルダーへ革新的な影響を生み出すことにより、目指すべき経済・社会価値を実現する』との強い想いを込めています。

2027年中期経営計画

▶ ありたい姿・目標



(注) 2026年2月に、2030年のありたい姿および2027年経営目標のアップデートを実施しました。詳細は6ページをご覧ください。

決算期の変更について

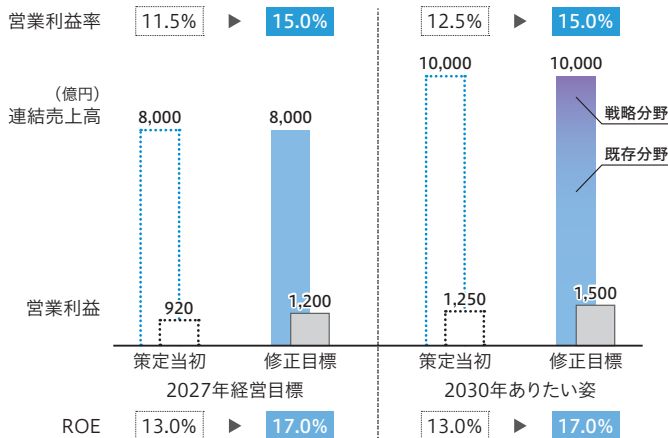
当社は、グローバルな事業運営の効率化および経営情報の適時・的確な開示により経営の透明性の向上を図るため、以下のとおり決算期を変更することといたしました。それに伴い、「2027年中期経営計画」は3年9カ月間となります。

2024年				2025年			
1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
2023年度		2024年度		2025年度			

2024年度(2024年12月期)は決算期変更の経過期間となるため、国内は2024年4月1日から2024年12月31日までの9カ月間、海外は2024年1月1日から2024年12月31日までの12カ月間が事業年度となります。

▶ 長期ビジョン・2027年中期経営計画のアップデート

当社は、モノづくり、お客さまへの提案、プロジェクト管理の3つのプロセスでの取り組みにより収益性が大幅に向上し、2025年度の実績が2027年中期経営計画の営業利益率およびROEの目標を超える水準になったことから、長期ビジョンおよび2027年中期経営計画の経営目標を以下のとおりアップデートしました。



バックキャスト売上目標の継続

労働力不足やデジタル化の進展を背景に自動化ニーズがグローバルで拡大。2030年のありたい姿からバックキャストした売上目標は継続

ありたい姿の実現に向けた戦略分野への挑戦

M&Aや食・環境など新領域への挑戦といった中長期的な成長を目的とした戦略分野での売上拡大も想定

収益性と成長性の両立による利益目標の上方修正

ものづくり、提案力、プロジェクト管理の強化を継続し、過去最高水準に高めた収益性を堅持。トップライン拡大との両立を目指し利益目標を上方修正

長期ビジョン・2027年中期経営計画のアップデートの詳細はこちら
www.daifuku.com/jp/ir/assets/20260212_04.pdf

▶ 事業戦略

イントラロジスティクス

事業規模拡大に向けて、完全無人化ソリューションの提供、およびFactory Automation (FA)の新領域開拓、次世代事業への挑戦を続けます。また、先端技術の活用による生産性の革新を図り、海外においては最適生産・最適調達を推進し、収益性を向上します。

- ・事業領域の拡大
- ・グローバルビジネスの収益性向上
- ・顧客からみた品質の追及
- ・先端技術を活用した生産性革新

クリーンルーム

先端技術を取り入れたシステム開発を行い、市場の拡大、新領域へ挑戦し、半導体工場のさらなる生産効率の向上を実現するため、絶えず進化することを目指します。

- ・顧客の価値創造
- ・既存領域の深化
- ・新領域・次世代事業への挑戦
- ・ビジネスの収益性向上

オートモーティブ

持続可能なモビリティ社会の実現に向け、次世代自動化システムを提供します。グローバルで変容著しいモビリティ市場において、さまざまなニーズに適応する自動化システムを提供することで、新たな価値を創生します。

- ・グローバルでのさらなる受注拡大
- ・既存事業の進化・新領域への挑戦
- ・成長分野へ経営資源の積極投入

エアポート

引き続き、北米での事業拡大を行うとともに、同じく需要拡大が見込まれるアジア・欧州地域での事業基盤確立に取り組みます。また、搬送における新技術投入に加えて、空港におけるデジタル分野での需要開拓に取り組みます。

- ・顧客への付加価値の提供
- ・デジタル分野での開発と販売強化
- ・グローバルでの収益性改善

オートウォッシュ

既存事業の強化と新領域への進出で洗浄事業の拡大を目指します。

- ・既存事業の進化・新領域への挑戦
- ・ビジネスの収益性向上

電子機器

事業規模拡大に向けて、日本・北米・アジアを中心に新領域で事業展開を行い、グローバルでの成長を目指します。

- ・グローバル市場での成長
- ・ビジネスの収益性向上

▶ **イントラロジスティクス**

一般製造業・流通業向けシステム



食品・飲料、医薬品をはじめ、機械・金属加工、電気製品、日用品など、さまざまな流通・製造分野でお客さまのニーズに対応した物流ソリューションを提供しています。これまで培った豊富な経験・ノウハウに加え、新たな技術への取り組みによって、自動化・省人化を極限まで高めています。

▶ **クリーンルーム**

半導体生産ライン向けシステム



半導体製造の自動化に欠かせないクリーンルーム向け搬送・保管システムを世界中のユーザーに納入しています。高い技術力と、非接触給電や窒素パーージといったユニークな技術で半導体の微細化ニーズに応え、後工程領域を含めた最先端半導体の生産現場の物流合理化に大きく貢献しています。

▶ **オートモーティブ**

自動車生産ライン向けシステム



半世紀以上にわたり、自動車工場のプレス・溶接・塗装・組立、部品の保管・供給、エンジンテストなどの工程全域に対して自動化・省人化システムを供給しています。xEV（BEV・PHEV・HEV・FCEV）へのシフトなど、グローバルに広がるモータリゼーションを、最先端の物流技術・ソリューションで支えています。

▶ **エアポート**

空港向けシステム



世界の空港に、手荷物搬送・仕分けシステムをはじめ、セルフ手荷物チェックインシステムやセキュリティレーンシステム、空港運用データベースなど「スマートエアポート」を実現するためのソリューションを提供しています。

▶ **オートウォッシュ**

洗車機・関連商品



物流システムで培ったモノづくりの技術・品質を洗車機に応用しています。一般的な門型から大型洗車機まで、幅広く展開。ガソリンスタンド、カーディーラー、運送会社などさまざまな業界へ提供しています。さらに、日本で初めてごみ収集車向けの内部洗浄装置を開発・市場投入するなど、新たな領域への挑戦も積極的に進めています。

▶ **電子機器**

子会社の株式会社コンテックを中心に、産業用コンピュータや計測制御製品・ネットワーク関連製品などのIoT機器の製造・販売、さらにソリューション事業を展開しています。高い信頼性が求められるFA向け電子機器で培ったコア技術を活かし、環境・エネルギー、医療、鉄道などの成長分野にも広がっています。

当社製品の導入事例についてはこちら
www.daifuku.com/jp/solution/casestudy

▶ **トータルサポート体制**

ダイフクの強みは、コンサルティング、システム構築から、製造、工事、長期安定稼働を支えるアフターサービス、リニューアルまで、トータルサポート体制を構築していることです。

マテリアルハンドリングシステムを構成する主要な製品を自社で開発、生産することにより、世界に広がるお客さまにご満足いただける最適・最良のソリューションを提供し、お客さまの競争優位性を押し上げています。



▶ **イントラロジスティクス**
一般製造業・流通業向けシステム

自動倉庫

自動倉庫は、保管する製品のサイズ・重量によってパレット系、ケース系に分かれます。近年はマルチテナントの物流センターや冷凍倉庫・危険物倉庫(防爆)への導入も増加しています。



無人搬送フォークリフト
「ソーティングトランスファーロボット F」

フォークリフト機構を有する搬送ロボットです。これまで有人で行っていた工程間の搬送作業などを代替し省人化を実現します。



パレット搬送・仕分けシステム
「ソーティングトランスファーロボット L」

潜り込み式のパレット搬送ロボットです。自動倉庫や垂直搬送機などとの連携も容易で省スペース化も実現します。

ケース搬送・仕分けシステム
「ソーティングトランスファーロボット M」

コンベヤレスで定点ピッキング・搬送・仕分けを行うケース搬送ロボットです。フロア搬送で自由自在なレイアウトの構成が可能になり、柔軟性・拡張性のあるシステムを実現します。



高能力ケース2Dシャトル自動倉庫
「シャトルラックMX」

シャトル台車が、従来の前後方向(X軸)だけではなく、左右方向(Z軸)にも搬送します。どのアイル(台車が走行する通路)にもアクセスが可能のため、シャトル台車から直接ピッキングステーションに出庫することができ、出庫コンベヤレスのレイアウトが構築できます。



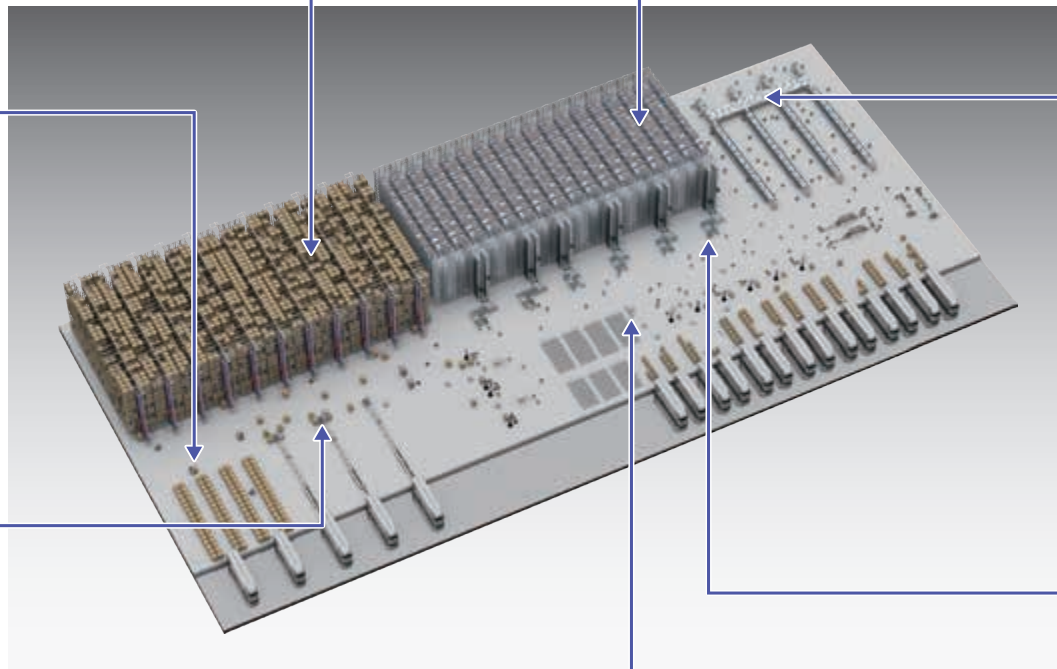
ピース仕分けシステム
「ソーティングトランスファーロボット S」

ピース品の仕分けを行う搬送ロボットです。さまざまな形状の商品を、正確・高速かつ優しく仕分けすることができ、荷揃え処理能力を高め、人手不足の課題解決をお手伝いします。



ピースピッキングロボット
「XY-ピッキングロボット」

3つの軸によるハンドリングと画像認識システムにより、さまざまな形状の商品が自動ピッキングでき、一般的なアーム型ロボットと比べて省スペースで設置可能です。AIによる画像認識技術やハンドリング技術の研究を進め、物流センターの完全自動化の実現を目指します。



物流ソリューションサイト

www.daifuku.com/jp/solution/intralogistics

業種別ソリューション、製品情報、導入プロセス、アフターサービスを分かりやすく紹介しています。

▶ クリーンルーム

半導体生産ライン向けシステム

クリーンルーム用搬送システム 「クリーンウェイ」

密閉型カセットFOUP (Front-Opening Unified Pod) に格納したウエハを天井走行台車が数百におよぶ複雑な工程を搬送します。摩耗粉が発生しない非接触給電技術を活用しています。



クリーンルーム用保管システム 「クリーンストッカー」

半導体生産工程で、仕掛品を一時保管する自動倉庫です。省スペース設計と高速アクセスを実現し、生産ラインの安定稼働を支えます。



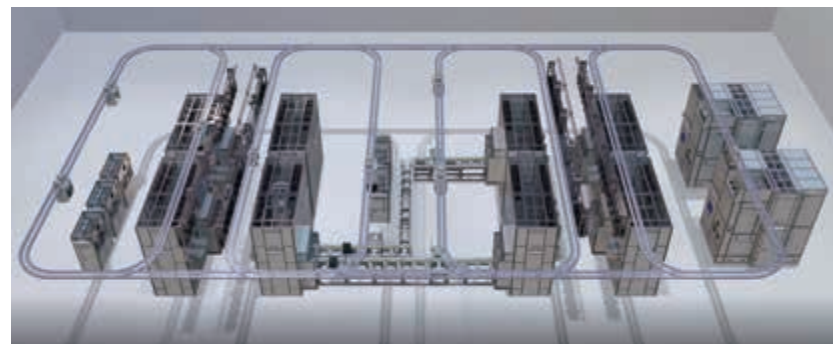
「窒素パーージシステム」

窒素ガスをFOUPに充填し、酸素濃度、湿度を下げることで、半導体ウエハの劣化を防ぐシステムです。設置済みのストッカーにも適用可能です。半導体における微細化加工の進展で、多くの工場へ納入しています。



後工程搬送システム 「CLW-A7」

近年、AIチップの高性能化に伴い、後工程において複数の機能を組み合わせる「チップレット」が主流となり、大型化したPLP (Panel Level Package) や重い搬送物を安全かつ安定して搬送するニーズが高まっています。「CLW-A7」はこうした要求に応えるために開発したものです。搬送中の振動を抑える低振動設計により、最大100kgの重量物を安全に自動搬送でき、デリケートな半導体の歩留まり低下を最小限に抑えます。



半導体工場（前工程）

クリーンルーム事業部門サイト
www.daifuku.com/pro/cr/jp
 半導体生産ライン向けシステムの各種製品・システムの動画を紹介しています。

▶ オートモーティブ

自動車生産ライン向けシステム

チェンレス搬送システム 「フレキシブルドライブシステム」

低速走行や振動の少ない安定した搬送が可能で、組立・加工ラインなどに最適な搬送システム(写真はフロアタイプ)です。



ドライブスルー型トラックステーション 「TRTS (トータス)」

トラックへの荷物の積み降ろしを一括で行うシステムで、同じ場所で荷積み・荷卸ろし作業を行えるため省スペース化が図れます。また、ドライブスルー方式により停車時間が短縮でき、トラック台数の削減にもつながります。フォークリフトレスによって作業環境の安全性向上に加えて、温室効果ガスの削減等、環境にも配慮できます。



自動搭載システム

さまざまな部品を自動車に自動で搭載するシステムを提供しています。写真のサスペンションとバッテリーの一括搭載システムでは、AGV (無人搬送車)が車両や搭載物の搬送を担い、複数台のロボットが協調運転して20ヶ所以上のボルトを連続で自動締結します。AGVはモジュールを組み合わせて自由にカスタマイズでき、お客さまの多様なニーズに応えます。



自動車生産ライン向け AGV 「TRVS (トラヴィス)」

TRVSは、車体を搭載する台車をけん引するAGVで、可搬重量は当社の従来製品の約2倍となる6トン超を実現しました。既存工場にも導入しやすいコンパクトな形状で、フロアを自由自在に動き回りながら工程間を移動する「自走する生産ライン」の実現に貢献します。



自動車生産ライン向けシステムサイト
www.daifuku.com/jp/solution/automotive

▶ エアポート 空港向けシステム

セルフ手荷物チェックインシステム

旅客自ら手荷物を預けられる自動化設備です。チェックインの効率化と混雑緩和に向けて国内外の空港で導入が進んでいます。



手荷物搬送・仕分けシステム

空港内での手荷物の迅速かつ正確な搬送・仕分けを提供する自動化設備です。RFIDやバーコードによるトラッキング技術を活用し、手荷物の所在をリアルタイムで管理します。



セキュリティレーンシステム

空港の保安検査を効率化する次世代型ソリューションです。複数の旅客が同時に検査準備を進められる独自設計により、待ち時間を短縮し、スムーズな検査を実現します。



エアポート事業サイト
www.daifukuattec.com (英文)

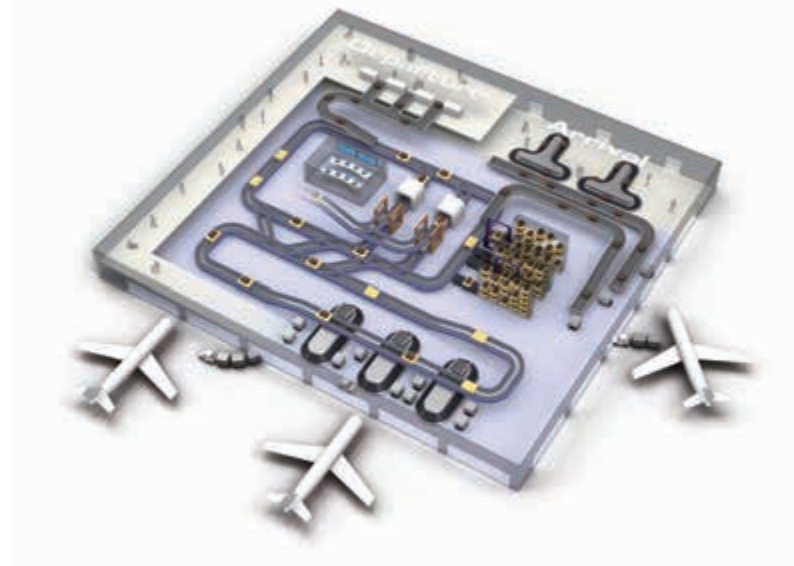
空港運用データベース

フライト情報をリアルタイムに旅客へ伝える表示システムをはじめ、ゲートやカウンターといったリソースを管理するシステムなど、空港運営を効率化する統合データベースを提供しています。



無人搬送手荷物検査システム

手荷物の自動搬送とX線検査を一体化した次世代型ソリューションです。預けられた手荷物は、AGVによって検査装置へ自動的に搬送され、検査後は仕分けラインへと連携されます。人手を介さず高精度な検査と搬送を実現しています。



▶ オートウォッシュ

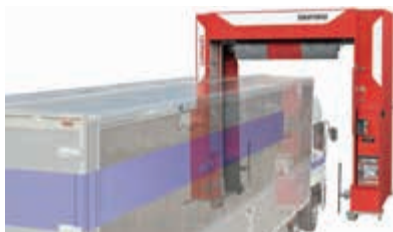
洗車機・関連商品

ドライブスルー洗車機
「トレウスワイド」

設置スペースは従来そのまま、間口を大型乗用車でも余裕をもって進入できる2,600mmへ拡大(+200mm)しました。さらに、静音ブラシ、純水生成装置、紫外線による劣化を抑制できるケミカルにより、快適性と利便性を一段と高めています。

大型洗車機
「カミオンカスタム」

トラック・バス向けの大型洗車機で、最短3分55秒という業界トップクラスのスピード洗車を実現しています。短時間で洗車が完了するため、総労働時間の削減に直結し、ドライバーの作業負担の軽減や作業環境の改善にも貢献しています。

ごみ収集車 内部洗浄装置
「シャワーホッパー」

日本初となる、ごみ収集車専用の内部洗浄装置です。従来、手作業で行っていたホッパー内部を自動で洗浄することで、労力軽減、作業時間短縮、水使用量の削減が図れます。さらに、衛生面での改善や安全性の向上にも貢献しています。

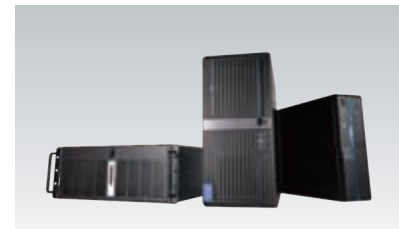


洗車機・関連商品の販売会社 ダイフクプラスモアのサイト
www.daifuku-carwash.jp

▶ 電子機器

産業用コンピュータ

高い信頼性・耐久性が求められる環境に対応したコンピュータです。FA、製造装置への組み込み、医療・エネルギー分野など、さまざまな業種・業界で活用されています。



IoT 機器

コンピュータを活用した計測制御システムに必要な各種信号処理を行うI/Oボード、ネットワーク機器を開発しています。



IoT ソリューションビジネス

工場、水処理施設、環境・エネルギーの現場でセンサ、制御機器、制御コントローラなどの計測監視、多拠点を集中管理するためのクラウドサービスなど、幅広く最適なソリューションも提供しています。また、AI技術を活用した新しいソリューションにも注力しています。



太陽光発電計測表示システム

コンテックサイト
www.contec.com

▶ 知的財産の活用

2027年中期経営計画では、「成長を支える仕組みの構築」をテーマの一つとして掲げています。これを実現するため、知的財産の権利化促進および保有知的財産権の利活用推進を施策として定めています。

2025年12月末時点の特許件数は4,773件です。

▶ 当社における発明考案の推進

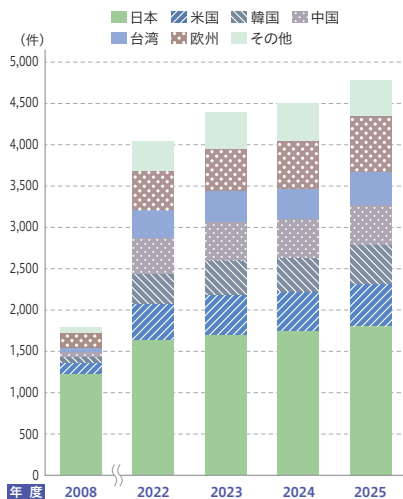
当社では、「発明考案の規程」を定めており、新規開発製品を中心に積極的な特許出願、権利化を図っています。特許は、出願してから登録されるまでに通常4～6年かかるため、出願特許の中から極めて優秀な発明考案に対して、「ダイフク発明大賞・発明賞」としてタイムリーな表彰を全社的にを行っています。

2025年度は、ダイフク発明大賞に2件、ダイフク発明賞に4件が選定されました。

▶ 海外の特許登録件数

近年は海外への特許出願数も増加傾向にあり、世界30カ国以上で特許を保有しています。特に、中国、韓国、台湾といったアジア圏での特許登録件数が増えています。

地域別特許登録件数推移



当社は、長期ビジョン「Driving Innovative Impact 2030」のもと、食や環境など新たな領域における社会課題の解決に挑戦しています。その実現には、AIをはじめとする先端技術の活用とDXの推進が不可欠です。当社はこれらの取り組みを積極的に進めていくことで、新たな価値を創出し、持続的な成長と社会への貢献を目指しています。

▶ 株式会社JDSCの戦略的パートナーシップ締結

当社は、AI開発やデータ活用によるDX支援実績を多数保有する株式会社JDSCと戦略的パートナーシップを締結しました。この提携により、高度な自動化技術の開発やDX推進、人材育成を加速します。具体的な取り組みは以下のとおりです。

- | |
|--|
| ① 先端技術戦略の立案・推進: 将来を見据えた研究開発を加速し、競争力を強化 |
| ② 革新的なマテハンシステムの開発: AIやロボティクスを活用し、各事業領域で付加価値を創出 |
| ③ 業務効率化に向けたAI活用: 類似障害情報検索や生成AIチャットボットなどを全社展開 |
| ④ DX人材育成「D-Adapt [※] 」: 2030年までに社員の10%をデータサイエンティストに育成 |

※Daifuku AI & Data science Advanced Pursuit Trainingの頭文字

詳細はこちら
www.daifuku.com/jp/company/news/assets/20250513_01.pdf

▶ 「京都Lab」の開設

京都Labは、研究開発体制の強化と技術人材の獲得・育成を目的に2025年11月に設立された拠点です。フィジカルAIの活用をはじめ、AGVやロボットの制御技術、半導体生産ライン向け搬送システムのソフトウェア開発など、各事業部が必要となる先端技術の研究開発を加速します。また、異なる事業間の連携を促進し、完全無人化やサステナブルな製品・サービスの開発を通じて、競争力強化と新たな価値創造を目指します。



京都Labの外観(当社は4階に入居)

▶ 財務指標

- (注) 1 2024年度は、決算期変更の経過期間であり、国内9カ月間・海外12カ月間の実績値です。
 2 2023年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っています。
 2021年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。2023年度以前の配当額は、株式分割からさかのぼって便宜的に計算したものです。
 3 2025年度より、受注高には為替変動に伴う直近期末受注残高の洗い替えによる増減額を含めていません。

(億円、網かけは過去最高値)

年度	2021	2022	2023	2024	2025
受注高	5,890	7,374	6,203	5,947	6,726
受注残	4,518	5,874	5,969	6,285	6,322
売上高	5,122	6,019	6,114	5,632	6,607
営業利益	502	588	620	715	1,008
営業利益率(%)	9.8	9.8	10.2	12.7	15.3
経常利益	512	597	642	744	1,046
親会社株主に帰属する当期純利益	358	412	454	570	780
1株当たり当期純利益(円)	94	109	121	154	212
1株当たり配当金(円)	30	36.7	40	55	78
総資産	4,833	5,515	6,461	6,887	7,542
純資産	2,920	3,323	3,587	3,984	4,515
ROA(%)	7.7	8.0	7.6	8.6	10.8
ROE(%)	13.1	13.2	13.2	15.1	18.4
自己資本比率(%)	60.2	60.2	55.5	57.8	59.9
営業活動によるキャッシュ・フロー	566	200	371	1,161	761
投資活動によるキャッシュ・フロー	-98	-118	-295	-23	-242
財務活動によるキャッシュ・フロー	-275	-301	227	-368	-273
フリー・キャッシュ・フロー	468	81	75	1,137	518
従業員数(人) (うち、海外現地法人)	12,436 (8,643)	13,020 (9,059)	13,071 (8,999)	11,042 (6,810)	11,417 (7,014)
設備投資額	115	168	214	155	333
減価償却費	73	85	95	79	90
研究開発費	107	104	112	93	131
有利子負債	263	114	706	633	613

▶ セグメント別業績推移

報告セグメント	概要
ダイフク	マテリアルハンドリングシステム・機器、洗車機などの製造販売の中核
コンテックグループ	産業用パソコン・インターフェイスボードなどの製造販売
DNA ^{※1} グループ	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">北米事業 統括会社 Daifuku North America, Inc.</div> <ul style="list-style-type: none"> <li style="margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">イントラロジスティクス Daifuku Intralogistics America Corporation</div> <li style="margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">クリーンルーム Daifuku Cleanroom America Corporation</div> <li style="margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">オートモーティブ Daifuku Automotive America Corporation</div> <li style="margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">エアポート Daifuku Airport America Corporation</div> </div>
CFI ^{※2}	韓国における半導体工場向け搬送システムの販売、製造、工事、サービス
DSA ^{※3}	中国における半導体工場向け搬送システムの販売、製造、工事、サービス
その他	上記以外の国内および海外子会社

※1 DNA: Daifuku North America, Inc. ※3 DSA: Daifuku (Suzhou) Cleanroom Automation Co., Ltd.
 ※2 CFI: Clean Factomation, Inc.

(億円)

	年度	2021	2022	2023	2024	2025
受注高	ダイフク	2,624	2,931	2,136	1,777	2,266
	コンテック	196	192	197	172	189
	DNA	1,351	2,110	2,020	1,833	1,961
	CFI	367	481	248	317	494
	DSA	264	406	466	318	470
	その他	1,085	1,251	1,133	1,528	1,343
	計	5,890	7,374	6,203	5,947	6,726
売上高	ダイフク	2,250	2,388	2,388	1,880	2,465
	コンテック	157	186	190	169	202
	DNA	1,404	1,587	1,757	1,724	1,658
	CFI	286	426	306	258	375
	DSA	156	251	300	533	409
	その他	892	1,157	1,186	1,021	1,499
	連結調整等 計	-25	20	-16	42	-5
セグメント利益 (親会社株主に帰属する 当期純利益)	ダイフク	286	340	332	292	556
	コンテック	12	9	8	2	11
	DNA	75	61	111	162	152
	CFI	20	29	18	14	33
	DSA	31	19	54	122	108
	その他	6	36	8	40	173
	連結調整等 計	-73	-85	-80	-64	-253

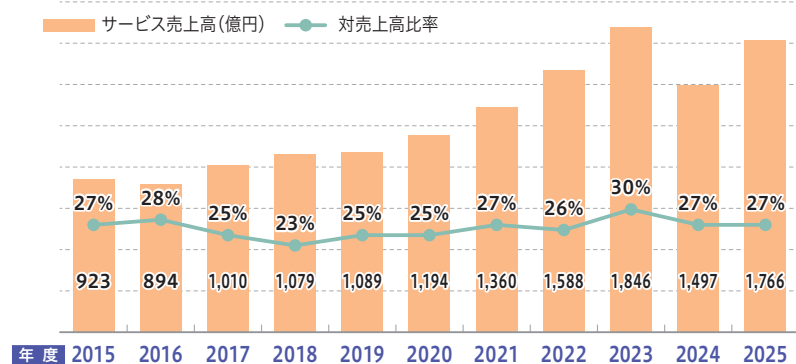
▶ 業種別売上高推移

(億円)

業種	年度	2021	2022	2023	2024	2025
自動車及び自動車部品		590	654	814	751	857
エレクトロニクス		1,513	2,157	2,035	1,971	2,510
商業及び小売業		1,551	1,609	1,475	1,098	1,334
運輸・倉庫		328	304	248	269	293
機械		115	103	103	87	82
化学・薬品		176	246	251	228	233
食品		200	157	206	218	248
鉄鋼・非鉄金属		35	48	54	39	58
精密機器・印刷・事務機		62	64	43	38	45
空港		437	461	658	718	768
その他		136	190	239	167	179
連結調整等		-25	20	-16	42	-5
合計		5,122	6,019	6,114	5,632	6,607

▶ サービス売上高

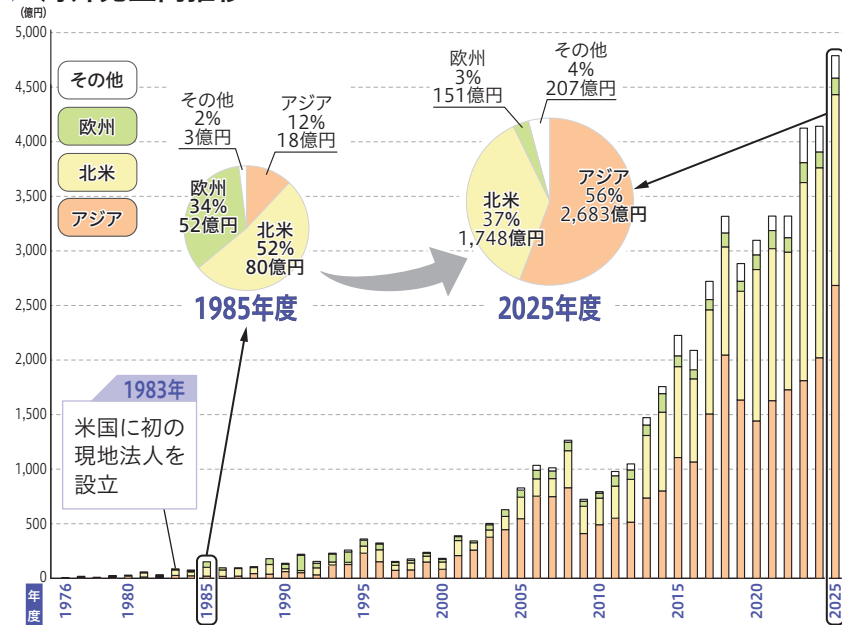
納入したシステム・製品を対象にした保守・メンテナンスなどによる売上高。幅広いサービスメニューを提供しており、安定的な収益につながっています。



アフターサービス

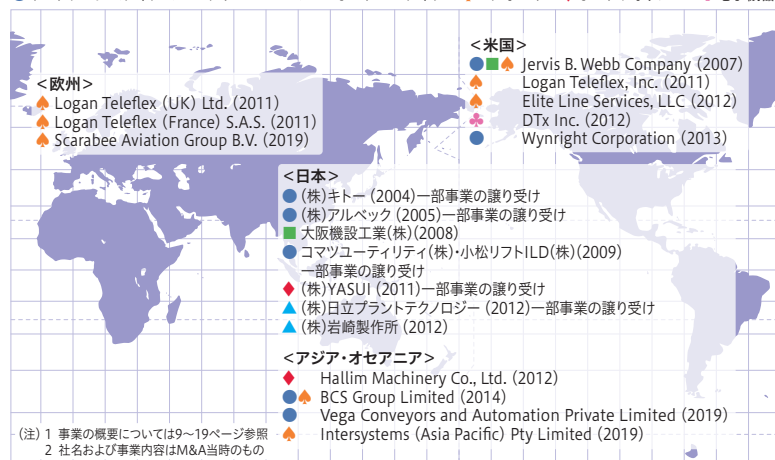
- ・定期点検
- ・システム保守契約
- ・安全技能教育
- ・ファシリティサービス
- ・トラブル対応
- ・パーツ供給
- ・リモートメンテナンス
- ・予知予報システム
- ・オンサイトサービス
- ・改造、リニューアル

▶ 海外売上高推移



▶ M&Aによる事業領域拡大(2000年以降)

- インフラロジスティクス
- ▲ クリーンルーム
- オートモーティブ
- ◆ エアポート
- ◆ オートウォッシュ
- ◆ 電子機器



▶ 地域別売上高推移

● 日本

物流2024年問題を背景として、物流関連投資が回復基調にあります。自動車を含む製造業や、流通業への豊富な納入実績があり、サービス売上高比率が高い市場です。

● 北米

1983年に日系自動車メーカーの米国進出に合わせて現地法人を設立し、一般製造業・流通業向けおよび半導体生産ライン向けに事業の幅を広げました。2007年以降はM&Aにより空港向けシステムに進出しています。2025年10月には、さらなる売上拡大を目指して、一般製造業・流通業向けシステムの新工場を増設しています。

● アジア

海外売上高の56%を占めています。半導体生産ライン向け(中国・韓国・台湾など)、自動車生産ライン向け(中国・韓国・タイ・インドネシアなど)のほか、一般製造業・流通業向けの需要拡大が期待されるインドでの新工場の増設が2025年4月に完了しました。今後もさらなる売上拡大を目指します。

● 欧州

一般製造業・流通業向けシステム、空港向けシステムの保守、メンテナンスサービスなどを行っています。

● 中南米

自動車生産ライン向けシステムが中心です。

地域	年度	2021	2022	2023	2024	2025
日本		1,827	1,972	2,004	1,446	1,820
海外		3,320	4,025	4,126	4,143	4,791
北米		1,367	1,521	1,816	1,741	1,748
アジア	中国	1,643	2,102	1,810	2,019	2,683
	韓国	572	608	857	1,105	837
	台湾	465	600	391	375	477
	その他	490	587	283	308	941
欧州		114	305	277	229	428
中南米		158	172	182	145	151
その他		52	62	106	66	32
その他		99	166	211	171	175
連結調整等		-25	20	-16	42	-5
合計		5,122	6,019	6,114	5,632	6,607
海外売上高比率		65%	67%	67%	-	73%

(億円)

(注) 2024年度は決算期変更に伴う、国内9カ月・海外12カ月の実績値のため、海外売上高比率は算出していません。

- (注) 1 2024年度は、決算期変更の経過期間のため、国内9カ月間・海外12カ月間の実績値です。
2 2023年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っています。
2021年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しています。2023年度以前の配当額は、株式分割からさかのぼって便宜的に計算したものです。

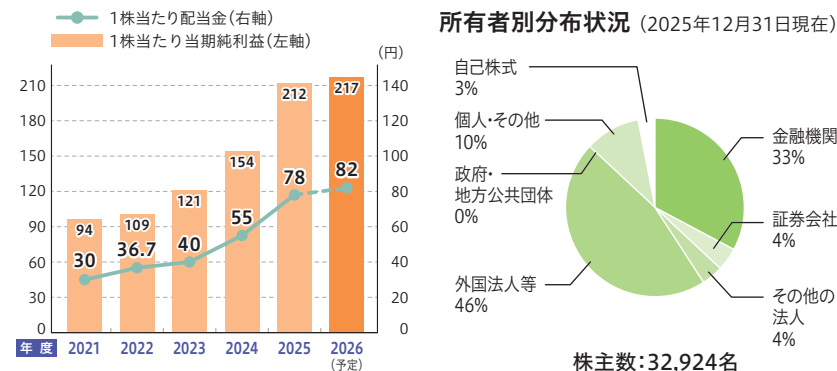
東京証券取引所プライム市場(証券コード:6383)

単元株数:100株

(円)

年度	2021	2022	2023	2024	2025
1株当たり当期純利益	94	109	121	154	212
1株当たり純資産	769	878	966	1,082	1,228
株価純資産倍率(倍)	3.8	2.8	3.7	3.0	4.0
株価収益率(倍)	30.9	22.4	29.5	21.4	23.2
1株当たり配当金	30	36.7	40	55	78
配当性向(%)	31.6	33.6	32.9	35.7	36.7
期末株価	2,930	2,443	3,584	3,300	4,928
株主総利回り(%) [※]	130.8	111.1	162.8	152.8	227.5
TOPIX(配当込) [※]	145.0	153.4	216.8	221.0	277.3
期末時価総額(億円)	11,129	9,279	13,613	12,534	18,718
期末発行済株式数(株)	379,830,231	379,830,231	379,830,231	379,830,231	379,830,231
資本金(億円)	318	318	318	318	318

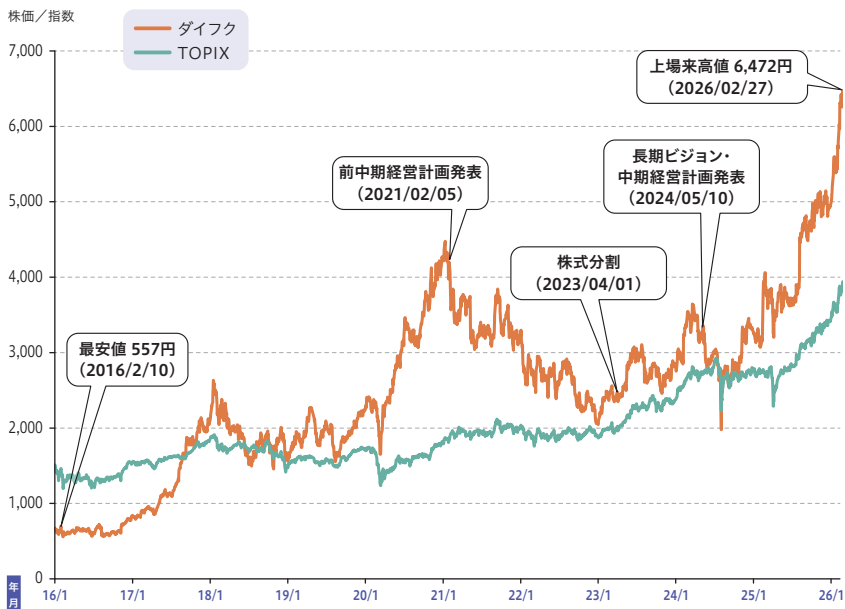
※2019年度末を基準として算出(第110期有価証券報告書に準拠)



▶ 株主還元方針

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を最重要事項の一つと位置付けています。2027年中期経営計画における連結配当性向は、各年度とも35%以上を目標としています。

▶ **株価推移** (2016年1月4日～2026年2月27日)



(注) グラフの当社株価は、2023年4月1日付で行った普通株式1株につき3株の株式分割を適用した数値です。

▶ **IRイベント**

当社は、IR活動の一環として「株主さま日に新館見学会」の開催や機関投資家・証券会社アナリスト向けにIR Dayを実施しています。



株主さま日に新館見学会



2022年より実施しているIR Day

▶ **経済価値と社会価値の創出に向けて**

当社は2024年5月、長期ビジョン「Driving Innovative Impact 2030」の策定に伴い、重要課題(マテリアリティ)を見直しました。長期ビジョンの達成に向けてグループで対応すべき重要課題をマテリアリティと定義し、マテリアリティを軸として、戦略・施策・行動計画・KPI(実績評価指標)を具体化しました。

ダイフクが取り組む枠組みとマテリアリティ

枠組み	マテリアリティ
既存事業の進化 新領域への挑戦 次世代事業の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・AI等を含む先端技術を活用した開発 ・サービスビジネスの拡充 ・新領域開拓と新規事業創出
成長を支える仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション創出に向けた投資・基盤づくり
業務全体の刷新	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーンにおける社会的責任の遂行 ・製品品質、製品安全の追求
継続した安全活動	<ul style="list-style-type: none"> ・労働安全衛生の徹底
環境負荷ゼロに向けた活動	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動への対応 ・資源循環の促進 ・自然との共生
経営体制の強化、管理の高度化	<ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンスの強化 ・ステークホルダーコミュニケーションの充足
組織の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保・育成 ・人権の尊重 ・ダイバーシティ & インクルージョン ・エンゲージメントの向上

「マテリアリティ」の詳細はこちら

www.daifuku.com/jp/sustainability/management/materiality




▶ ダイフク環境ビジョン2050 (2024年5月改定)

当社は、2050年に「マテリアルハンドリングシステムが環境負荷ゼロで動く世界を実現します。」と掲げ、3つの重点領域と2030年の環境目標を設定しています。

マテリアルハンドリングシステムが環境負荷ゼロで動く世界を実現します。



2030年の環境目標

重点領域	KPI (実績評価指標)	目標
 気候変動への対応	自社CO ₂ 排出量(スコープ1+2)	60%削減(2018年度比)
	再生可能エネルギー由来の電力比率	80% (日本は2027年に100%達成見込)
	購入した製品・サービスに伴うCO ₂ 排出量 (スコープ3 カテゴリ1)	30%削減 ^{*1} (2018年度比)
	販売した製品の使用に伴うCO ₂ 排出量 (スコープ3 カテゴリ11)	
 資源循環の促進	廃棄物の埋立率	1%未満
	水使用量売上高原単位 ^{*2}	60%削減 ^{*3} (2018年度比)
 自然との共生	主要拠点 ^{*4} における生物多様性保全活動実施率	100%
	サステナビリティアクションのグローバル展開	プログラムの拡充・啓発

※1 スコープ3のカテゴリ1およびカテゴリ11合わせたの目標

※2 水使用量(千m³) / 売上高(億円)

※3 当初目標を前倒しで達成したため、上方修正しました(2024年8月)

※4 従業員数100人以上の拠点

▶ 環境への取り組み

CO₂削減目標がSBTイニシアティブの認定を取得

2023年11月に当社のCO₂排出量削減目標が、パリ協定に準じた科学的根拠に基づく目標と認められ、SBT (Science Based Targets) イニシアティブ^{*}より認定を取得しました(2024年1月公表)。

「ダイフク環境ビジョン2050」では、「気候変動への対応」を重点領域の一つとして設定し、各拠点における再生可能エネルギーの導入、当社製品の稼働や調達活動に伴うCO₂排出量の削減などに取り組んでいます。

※ CDP、国連グローバル・コンパクト、WRI (世界資源研究所)、WWF (世界自然保護基金) が共同で設立した国際的な機関。パリ協定が定める水準と整合した科学的根拠に基づく目標を設定していると認められる企業に対して、認定を付与している。

再生可能エネルギーの導入・拡大

2024年11月より、国内で使用する電力をすべて再生可能エネルギー由来へと切り替えました。2025年度はDaifuku Intralogistics India Private Limited (インド) で太陽光発電設備を設置し、Daifuku Korea Co., Ltd. (韓国) においてもオンサイトPPAによる新たな再生可能エネルギーの導入を行いました。また、Daifuku Automotive America Corporation (米国)、Daifuku Oceania Limited (ニュージーランド) においても再生可能エネルギー由来の電力への切り替えを行っています。2026年度は、韓国、台湾および米国において新たに再生可能エネルギーの導入を計画しています。

「TNFD 提言」に基づく情報開示

2025年6月より、TNFD^{*}の提言に基づく情報開示を開始しました。TNFD 提言のフレームワークに沿って、当社グループの事業活動と自然資本の関係を把握し、自然資本への依存や影響、将来的なリスクと機会について評価したものです。また、TNFDに関連する情報の共有や枠組みの策定、議論をサポートする組織「TNFD フォーラム」にも参画しています。「ダイフク環境ビジョン2050」の目標達成に向け、今後も生態系サービスの持続可能な利用と生物多様性の保全に取り組んでまいります。



※ TNFD: 自然関連財務情報開示タスクフォース
(Task Force on Nature-related Financial Disclosures)

詳細はこちら www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/management

「DAIFUKUサステナビリティアクション」制度（2012年度～）

当社は、従業員が環境・社会貢献をより身近に感じられるよう、従業員参加型の「DAIFUKUサステナビリティアクション」制度を実施しています。本制度では、従業員が環境・社会活動に参加することでポイントを獲得でき、そのポイントを環境配慮製品等に交換ができるほか、ポイントに応じた金額を会社から外部団体へ寄付しています。2025年度は延べ13,530名が参加し、69,261ポイントを発行しました。なお、外部団体に対しては2024年度の参加実績に基づき計330万円の寄付を行いました。

生物多様性保全活動「結いプロジェクト」（2014年度～）

緑に囲まれた約120万m²の滋賀事業所の敷地には、森・湿地・ため池などの環境に1,000種以上の在来種が生息しています。この豊かな自然を守るために、生物の保全活動や環境貢献活動、従業員が自然と触れ合うイベントなどを行っています。

2024年9月、「結いプロジェクト」の一環として整備している「結いの森」が環境省から「自然共生サイト」に認定されました。「自然共生サイト」とは、民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域が認定されるもので、当社の生物多様性に対する取り組みや社内外との交流活動が評価され、今回の認定につながりました。



絶滅危惧種のヤマトサンショウウオ



「結いの森」の観察湿地



「生物多様性のための30by30アライアンス」ロゴマーク

詳細はこちら www.daifuku.com/jp/sustainability/environment/biodiversity

▶ 社外評価

評価機関	評価・スコア(2026年2月時点)
MSCI (アメリカ)	AA
FTSE Russell (イギリス)	4.0
CDP Worldwide (イギリス)	気候変動 : A
	水セキュリティ : A-

詳細はこちら www.daifuku.com/jp/sustainability/external-evaluation

▶ 安全

“安全はすべてに優先する”をスローガンに掲げ、社長直轄の安全衛生管理本部主導のもと、安全意識の向上に取り組んでいます。

- ・安全パトロールの実施
- ・安全体感道場の運営
- ・主要サプライヤー向け安全衛生トップセミナー開催等



経営トップによる安全パトロール

▶ 人材育成

人材育成を効果的に推進するため、体系的かつ重点的な施策を展開しています。特に、事業のグローバル展開を支える人材の育成、マネジメントの強化を進めています。

- ・階層別研修
- ・キャリア開発研修
- ・グローバル人材育成制度
- ・選抜型研修
- ・海外従業員向け研修等

詳細はこちら www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-resources

▶ 健康

全社横断組織である「こころと体の健康づくり委員会」が健康課題の特定・目標設定や、各種健康イベント、外部講師による講演会、研修を実施しています。

- ・ラインケア/セルフケアセミナー
- ・職場でエクササイズ
- ・健康測定会
- ・ウォーキングイベント等



地域盛り上げイベントとのコラボ企画・歴史散策ウォーキングイベントを実施(写真は滋賀県蒲生郡日野町)

▶ 人権への取り組み

2021年度に「ダイフクグループ人権方針」を策定し、2022年度より人権デュー・ディリジェンス(人権DD)を継続して実施しています。具体的な取り組みとして、サプライヤーに対する訪問インタビューや人権方針への同意書取得、サプライチェーンにおける外国人労働者の雇用状況調査などを行っています。今後も「人権の尊重」が事業と組織の持続的な成長における最も重要な責任の一つであると認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

詳細はこちら www.daifuku.com/jp/sustainability/society/human-rights

▶ ダイバーシティ&インクルージョン

当社は、経営理念に基づいた多様な人材の雇用と従業員の一人ひとりが「働きがい」と「働きやすさ」を感じ、いきいきと仕事ができる環境の整備を推進しています。

女性活躍

女性活躍推進に積極的に取り組むため、子育てと仕事の両立を図りながら能力を十分に発揮して成長することができる支援制度の拡充を行っています。今後は女性の管理職登用の取り組みをより強化していきます。

障がい者雇用機会の創出

当社では、2024年4月より引き上げとなった障がい者の法定雇用率2.5%の達成に向け、障がい者雇用の取り組みを積極的に進めています。マザー工場である滋賀事業所では、製造現場における障がい者雇用を促進するため、専門の部署を設置しています。県内の高等養護学校などと提携し、職場実習の受け入れや定期採用を行っています。また、当社独自の「採用前実習→会社適応→職場実習→職場適応」というステップを踏むカリキュラムを実施し、安心して働ける体制を構築しました。近年はデジタル化による職域拡大が進んでおり、製造現場での業務だけでなく、設計や管理などの事務的な業務に就くケースも増えてきています。



支援担当社員による組立指導

▶ 基本的な考え方

当社グループは、変わらぬ企業姿勢としての「社是」、社会・事業環境の変化を踏まえた「経営理念」の精神に則りながら、コーポレートガバナンスの実効性を継続的に高めることで、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図り、社会・経済全体の発展に寄与していきます。この基本的な考え方に則り、「ダイフクグループ コーポレートガバナンスに対する基本方針」を制定しています。

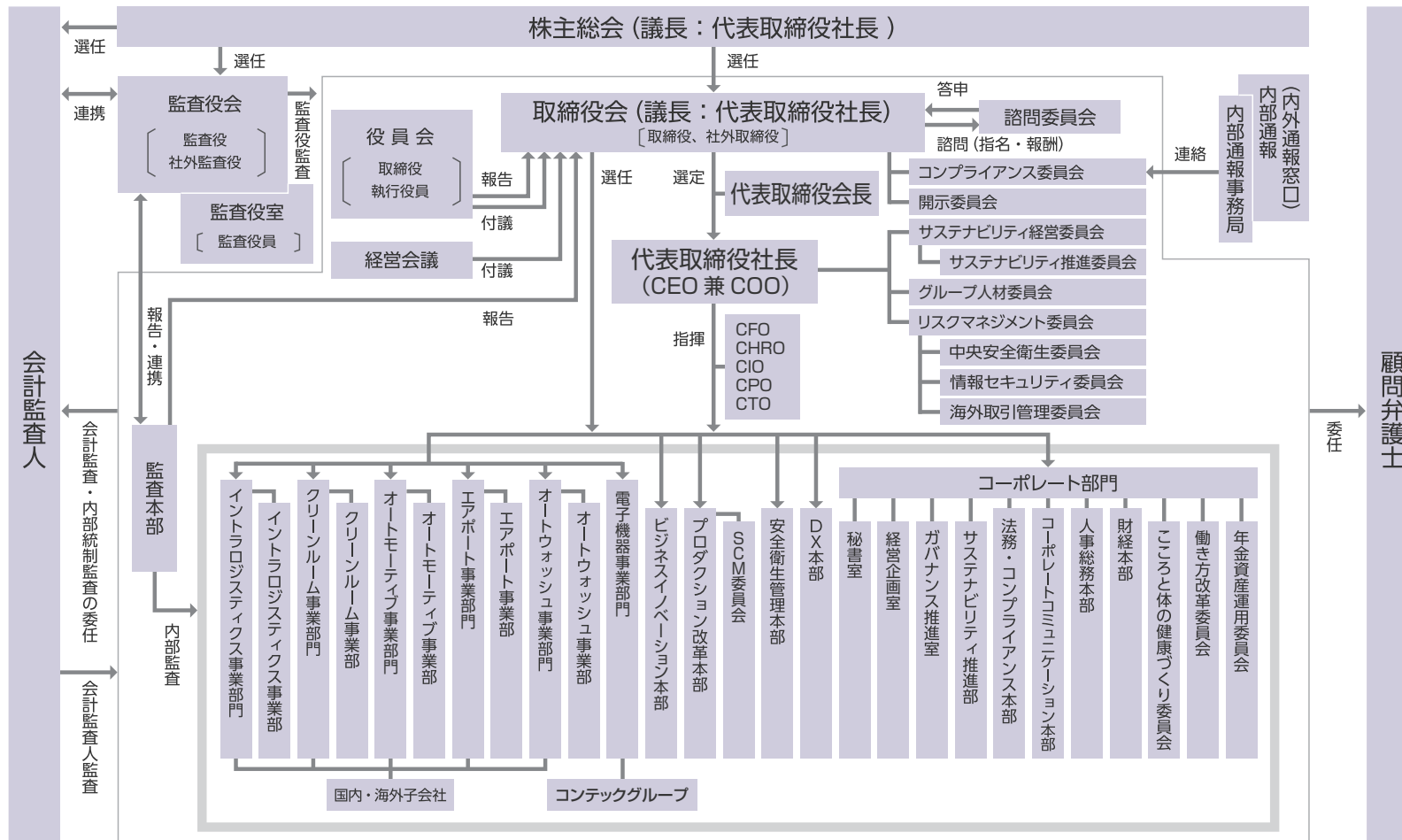
詳細はこちら www.daifuku.com/jp/ir/policy/governance

▶ コーポレートガバナンス体制の概要 (2026年3月27日現在)

組織形態	監査役会設置会社
定款上の取締役の任期	1年
取締役会の議長	代表取締役社長
取締役の人数	9名うち社外5名(女性3名、外国籍1名)
取締役会開催回数(2025年度)	定例:12回、臨時:4回
任意の委員会の有無	有り(指名、報酬に係る諮問委員会)
諮問委員会の構成員・議長	構成員:代表取締役1名以上、社外取締役1名以上を含めた3名以上 議長:社外取締役 回数:年3回以上
監査役的人数	4名うち社外3名
監査役会開催回数(2025年度)	定例:9回
社外取締役および社外監査役の独立性判断基準	当社の基準を定め、株主総会招集通知などで開示しています。
取締役会の実効性評価	取締役・監査役へのアンケート調査を外部機関に委託。概要をコーポレートガバナンス報告書などで開示しています。
中長期業績に連動する役員報酬	業績連動型の株式報酬制度である株式給付信託(BBT: Board Benefit Trust)を導入しています。

▶ コーポレートガバナンス体制図

2026年1月更新



2026年度の主な改定ポイント

・経営体制の若返りを図り、市場環境の急速な変化に対応し、グローバルでのさらなる競争力の強化と企業価値向上を目指すため代表取締役の委嘱業務を変更しています。

・代表取締役社長がCEOおよびCOOを兼務する体制とし、戦略の実行力強化と意思決定の一層の迅速化を図ります。

▶ 社内取締役



代表取締役会長
下代 博



代表取締役社長
(CEO 兼 COO)
社長執行役員
寺井 友章



取締役
専務執行役員
CHRO (Chief Human Resource Officer)
コーポレート部門長
田久保 秀明



取締役
常務執行役員
CFO (Chief Financial Officer)
コーポレート部門副部門長
経理本部長
白比 徹也

▶ 社外取締役



取締役
Gideon Franklin
ギディオン・フランクリン



取締役
吉田 晴行



取締役
神崎 夕紀



取締役 (新任)
本郷 真弓



取締役 (新任)
中村 明日香

▶ 監査役



常勤監査役
齊藤 司



社外監査役
和田 信雄



社外監査役
箱田 英子



社外監査役 (新任)
大木 一也

▶ 取締役会の構成

当社は、経営環境の変化や当社グループにおける経営方針・経営計画などを考慮して、専門性や経験、多様性などの面から最適な取締役会の構成を検討し、取締役を選任しています。各取締役の専門性・経験を示したスキル・マトリックスは以下のとおりです。

取締役会のスキル・マトリックス

氏名	独立性	専門性・経験						
		企業経営	テクノロジー	財務・会計	法務・リスクマネジメント	営業・マーケティング	グローバル	ESG
下代 博		●			●		●	●
寺井 友章		●	●			●	●	
田久保 秀明		●			●		●	●
日比 徹也		●		●	●		●	
ギディオ・フランクリン	✓	●		●			●	
吉田 晴行	✓	●		●			●	
神崎 夕紀	✓	●	●					●
本郷 真弓	✓				●		●	●
中村 明日香	✓			●	●			●

* 各人の有するスキルのうち主なものの最大4つに「●」印をつけています。
 * 上記一覧表は、各人の有するすべての知識・経験・能力等を表すものではありません。

▶ 専務執行役員

三品 康久	CPO (Chief Production Officer) CIO (Chief Information Officer) 滋賀事業所長 プロダクション改革本部長
上本 貴也	エアポート事業部門長
権藤 卓也	CTO (Chief Technology Officer) ビジネスイノベーション本部長

▶ 常務執行役員

西村 章彦	Daifuku North America, Inc. President and CEO
鳥谷 則仁	イントラロジスティクス事業部門長 イントラロジスティクス事業部長
園田 篤	クリーンルーム事業部門長 クリーンルーム事業部長 小牧事業所長
前田 勉	オートモーティブ事業部門長 オートモーティブ事業部長
山本 誠二	イントラロジスティクス事業部工事・サービス本部長 安全衛生管理本部長
秋葉 博文	コーポレートコミュニケーション本部長

▶ 執行役員

井筒 正幸	エアポート事業部長 エアポート事業部エアポート本部長 安全衛生管理本部副本部長
田中 崇文	オートウォッシュ事業部門長 オートウォッシュ事業部長 株式会社ダイフクプラスモア 代表取締役社長
矢野 準二	イントラロジスティクス事業部生産本部長
西山 和良	電子機器事業部門長 株式会社コンテック 代表取締役社長
大谷 諭	オートモーティブ事業部事業推進本部長
立見 文明	Daifuku Intralogistics America Corporation Chairman イントラロジスティクス事業部グローバル戦略本部長
矢野 雅昭	人事総務本部長
中村 親	イントラロジスティクス事業部営業本部長
鹿取 功史	クリーンルーム事業部生産本部長

▶ 監査役員

高橋 利勝	監査役室長
-------	-------

事業環境	第2次世界大戦				焦土からの再建				乗用車生産本格化				高度成長期			
年	1937年		1939年		1944年		1947年		1957年		1963年		1964年		1966年	
トピック	(株)坂口機械製作所として創業		御幣島工場(現大阪本社)を建設		総合商社の傘下入り、兼松機工(株)と改称		大福機工(株)に改称※1		米国Webb社※2と技術提携						わが国初の自動倉庫	
製品	鍛圧機械 起重機						港湾荷役運搬機器		チェンコンベヤ (44ページ)		ポウリング マシン(44ページ)		無人搬送車		建屋一体型パレット自動倉庫	
スローガン・ブランド・メッセージ					荷役運搬機械武芸百般				マテハンの大福						無人への挑戦	

[太字:現在も生産]

※1 大阪と福知山に工場があったこと、中国語でめでたい言葉であることなどから命名。

※2 現社名: Daifuku Airport America Corporation

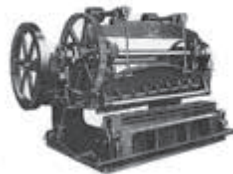
創業

1937年5月20日、ダイフクの前身である株式会社坂口機械製作所を創業。主に圧延機、エアハンマー、製鉄用の鍛圧機械(写真右下)や各種起重機を製造していました。

1939年、主力の工場を大阪市西淀川区御幣島に建設しました(現大阪本社)。



1939年ごろの御幣島工場



鍛圧機械

社是「日新」

今日の「われ」は昨日の「われ」にあらず
明日の「われ」は今日の「われ」とどまるべからず

社是「日新(ひにあらた)」は、ダイフクの開拓、開発意欲に燃える企業精神が表現されており、社員の心の支え、行動原理になっています。

基になったのは、紀元前16世紀頃、中国最初の王朝・殷の創始者・湯王(とうおう)が自らを鼓舞した逸話です。湯王は、「苟日新、日日新、又日新」の言葉を洗面器に刻んで毎日三度唱えて自戒し、数百年続いた王朝の基礎を築きました。これは、「今日の行いは昨日よりも新しくよくなり、明日の行いは今日よりも新しくよくなるように修養に心がけねばならない」という意味です。

事業環境	高度成長期 レジャーブーム		ボウリング ブームの終えん	安定成長期へ	世界一の 自動車生産国に	「ロボットが ロボットを作る」			
年	1969年	1971年	1973年	1975年	1980年	1984年	1986年	1987年	1991年
トピック	ボウリングの利益で コンピュータや開発に 積極投資		わが国初の 冷凍自動倉庫	(株)コンテック設立 滋賀事業所の 操業開始	初の現地法人 を米国に	株式会社ダイフク に改称			
製品	オンライン制御 自動倉庫 バッテリーフォークリフト	ユニット式 パレット自動倉庫 (10ページ)	自動仕分け機 中・軽量棚 「テレリフト」(47ページ)	洗車機(18ページ)	自動車工場用モノレール式 搬送システム 半導体生産ライン向け搬送・ 保管システム(12ページ)	デジタル表示式 ピッキングシステム ケース自動倉庫	チェンレス搬送 システム(14ページ)	ローラコンベヤ	[太字:現在も生産]
スローガン・ ブランド メッセージ	FAのダイフク				Advanced FA				



国内初の乗用車専門工場に納入された
コンベヤシステム



国産のボウリングマシン1号機

ダイフクは、第2次世界大戦後の混乱期、高度成長から安定成長への転換期で大きな試練を乗り越えてきました。

1957年、創業製品のクレーンや製鉄機械に見切りをつけ、1960年度には米国Jervis B. Webb Company (Webb社)が開発したチェンコンベヤを中心とする体制を確立しました。Webb社は1919年創業で、米国のモータリゼーションを支えてきた老舗企業です。後に当社グループの一員となります。

1972年度、ボウリングマシンが売上高の72%に達しました。ボウリングマシンは構造的にマテハンの応用で、コンベヤなどの受注品と異なり、計画生産品であることが経営上の魅力です。ボウリングブームに乗って急成長しましたが、ブーム終息後は、本来のマテハンシステムに特化した事業活動に回帰しています。

事業環境	アジア経済危機	インターネットの普及		グローバル化	リーマン・ショック	東日本大震災	
年	1994年	1995年	1999年	2002年	2007年	2008年	2011年
トピック	日に新たな館オープン (57ページ) ISO 9001 認証始まる	韓国にCFIを 設立	滋賀・小牧事業所が ISO 14001 認証を取得		滋賀事業所を世界最大級のマテハン生産拠点に 米国Webb社を完全子会社化 世界の生産拠点で ISO 9001と14001を取得		北米事業統括会社 (現DNA)を設立
製品	小物高速自動仕分け機 世界初の非接触給電システム	自動搬送式納骨堂	第5世代液晶パネル 搬送システム	自動車塗装システム	高能力ケース自動倉庫	世界最速の空港手荷物 搬送システム(16ページ) 高能力デジタルピッキングシステム	
	[太字:現在も生産]						
スローガン・ ブランド メッセージ	Logistics Navigator	IT革命・物流革命に 挑戦するダイフク		Material Handling and Beyond モノを動かす。心を動かす。			

▶ 時代のニーズに即した顧客・業種別売上高

(億円、()内は構成比)

年度	1996※	2005	2009	2013	2020
時代の背景	FAの高度化	液晶の普及	航空旅客の増大	eコマース本格化	自動化需要の拡大
業種					
自動車・自動車部品	257(20%)	542(27%)	237(15%)	589(24%)	801(17%)
エレクトロニクス	242(19%)	637(32%)	456(30%)	593(25%)	1,370(29%)
その他製造業	377(30%)	263(13%)	264(17%)	332(14%)	603(13%)
商業・小売	145(12%)	304(16%)	280(18%)	459(19%)	1,155(24%)
運輸・倉庫	94(7%)	141(7%)	92(6%)	84(3%)	235(5%)
空港	- (-)	- (-)	104(7%)	205(9%)	412(9%)
その他	156(12%)	98(5%)	106(7%)	153(6%)	158(3%)
合計	1,273	1,988	1,542	2,418	4,739

※1996年度のみ単体売上高

ダイフクは、ノウハウや技術を蓄積、ミックスし、新しい産業分野に応用することで、イノベーションを継続しています。

1980年代、半導体工場のクリーンルーム向け搬送システムの需要が急増しました。中核機種の天井走行モノレール(写真上)は、病院のカルテや検体、図書館の蔵書、空港の書類などの搬送に使われる「テレリフト」(写真下)を発展させたものです。

2000年代には、液晶パネル工場向けのシステムを、また2007年には、M&Aで空港向けシステムを加えました。

近年は、商業・小売や運輸・倉庫分野の売上高が年々拡大しています。コンビニエンスストア、総合スーパー、医薬卸、百円ショップ、eコマースなど、幅広い流通形態に合ったシステムを開発しています。



事業環境	中国のGDPが世界2位に 新興国生活水準の向上	ネット通販の普及	物流現場の人手不足				
年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
トピック	中国にDSAを設立	滋賀県最大級(当時)メガソーラー完成	国連グローバルコンパクトに加盟			公募増資などにより 資本金が150億円から 318億円に	
製品	調剤監査支援システム(写真1) 半導体工場向け窒素パージシステム (12ページ) 高能力ケース荷揃えシステム	エリア管理システム 部品物流向け一時保管・仕分けシステム		電動フォークリフト向け 非接触充電システム (写真2)	第10.5世代 液晶生産ライン向けシステム	ドライブスルー型 トラックステーション (14ページ)	
スローガン・ブランドメッセージ	Always an Edge Ahead						

[太字:現在も生産]

▶ 幅広い分野で活躍するマテハン

ダイフクは、これまでに培ったノウハウを活用し、世界の幅広い産業界にさまざまなマテハンシステム・機器を提供しています。

ダイフク公式チャンネル「D-Tube!」

当社公式のYouTubeチャンネルで、さまざまな製品や導入事例の動画をご覧いただけます。

www.youtube.com/user/daifukuchannel

調剤薬局

画像認識と重量検品を組み合わせ、投薬ミスを防止します。



(写真1) 調剤監査支援システム「audit」

工事・物流現場

バッテリー駆動の電動車両への充電を非接触で行います。



(写真2) 電動フォークリフト向け非接触充電システム「D-PAD」

コミュニケーションサイト 「DAIFUKU Square」



当社と社会をつなぎ、新たな価値を創造するサイトです。
さまざまなコンテンツを毎月発信しています。

www.daifuku.com/jp/daifuku-square/?dr=news

事業環境	新型コロナウイルス感染症拡大				物流2024年問題			
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
年	→							
トピック		経営理念を改定(3ページ) 「ダイフク環境ビジョン2050」 を制定		(株)コンテックを 完全子会社化	ユーロ円CBを発行	決算期を変更(5ページ) 長期ビジョンを策定 (4~7ページ) 滋賀事業所の再編を開始		
製品		超高密度パレット 自動倉庫 ピースピッキングロボット (11ページ) パレット搬送・仕分けシステム (10ページ)	ピース仕分けシステム (11ページ)			ごみ収集車 内部洗浄装置 (18ページ)	ケース搬送・仕分けシステム(10ページ) 高能カケース2Dシャトル自動倉庫 (11ページ) 無人搬送フォークリフト(10ページ) 後工程搬送システム(13ページ)	[太字:現在も生産]
スローガン・ ブランド メッセージ	Automation that Inspires							

▶ 最新のトピックス

ユーロ円建転換社債型新株予約権付社債(ユーロ円CB)を発行

2023年9月、2種類のユーロ円CBを発行しました。2028年満期および2030年満期の新株予約権付社債です。本社債の発行による手取金約600億円の用途は以下のとおりです。

約400億円：設備投資

- 滋賀事業所における一般製造業・流通業向けシステムおよび半導体生産ライン向けシステム等を中心とした工場生産設備の維持更新や増強(約330億円)
- 米国やインドにある一般製造業・流通業向けシステムの工場生産設備の増強(約70億円)

約200億円：自己株式取得(実施済)

- 資本効率の改善および株式数削減を通じた1株当たり株式価値の向上
- 本ユーロ円CBの発行に伴う当社株式需給への短期的な影響の緩和

【投資予定拠点】

日本	滋賀事業所
米国	Daifuku Intralogistics America Corporation (2025年10月完了)
インド	Daifuku Intralogistics India Private Limited (2025年4月完了)

滋賀事業所の再編を開始

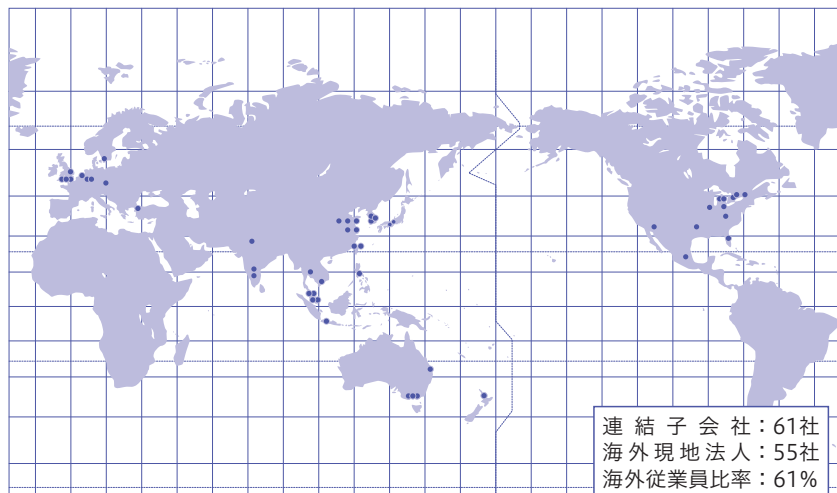
当社グループのマザー工場である滋賀事業所(蒲生郡日野町)で生産能力の増強、工場物流の最適化などを目的とした再編を開始し、2025年7月には先行して一般製造業・流通業向けシステムの新工場棟(M棟)が完成しました。半導体生産ライン向けシステムの工場棟(G棟)の新設も進めており、2026年度中の完成を予定しています。

同事業所の再編は、2028年までを目途に総額で約330億円を投じる見込みであり、事業所内への外部倉庫の取り込みによる物流の効率化や、老朽化した設備の改修によるBCP対応などを進めます。

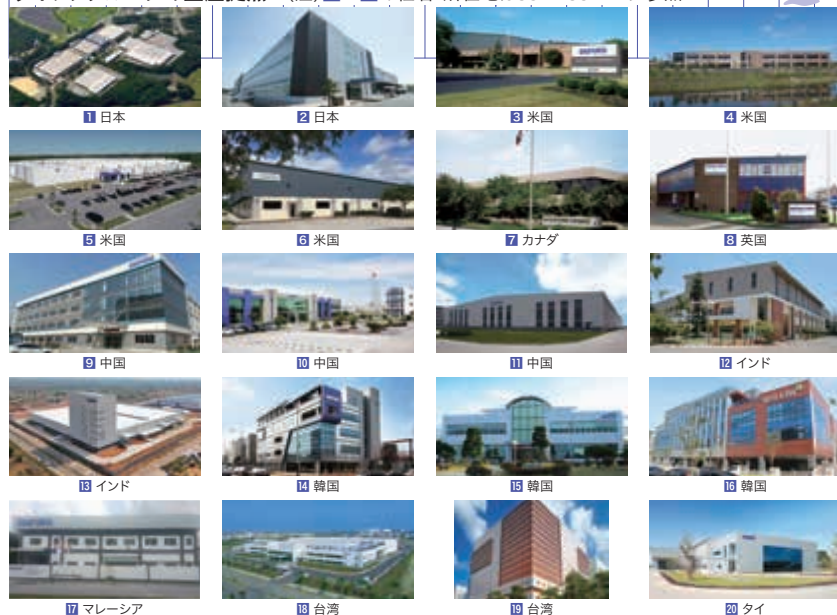


2025年7月に完成したM棟(左)とG棟(右)の完成イメージ

24の国と地域で事業を展開



ダイフクグループの生産拠点 (注) 1~20の社名・所在地は53~55ページ参照



主要拠点

- 本社(大阪)**
 〒555-0012
 大阪府大阪市西淀川区御幣島3-2-11
 TEL:06-6472-1261(代)
- 東京本社**
 〒105-0022
 東京都港区海岸1-2-3 汐留芝離宮ビルディング
 TEL:03-6721-3501(代)
- 滋賀事業所** 1
 〒529-1692
 滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225
 TEL:0748-53-0321(代)
- 小牧事業所** 2
 〒485-8653
 愛知県小牧市小牧原4-103
 TEL:0568-74-1500(代)
- 京都Lab**
 〒606-8357
 京都府京都市左京区聖護院蓮華蔵町
 31-1 4階
- 営業・サービス拠点 全国約55カ所

海外支店

- チェコ支店 ■
- ドイツ支店 ●
- フィリピン支店 ■
- イスタンブール支店 ■
- イギリス支店 ●

国内子会社

- 株式会社コンテック ♣
- 株式会社ダイフクプラスモア ◆
- 株式会社ダイフクビジネスサービス
- 株式会社ダイフク・マニュファクチャリング・テクノロジー ●
- Daifuku Airport Technologies Japan 株式会社 ♠
- 株式会社スカラベアービエーショングループ・ジャパン ♠

●イントラロジスティクス ▲クリーンルーム ■オートモーティブ ♠エアポート ◆オートウォッシュ ♣電子機器

北中米

Daifuku North America, Inc.

Novi, MI, U.S.A.

Daifuku Airport America Corporation

4 ▲

- **World Headquarters**
Novi, MI, U.S.A.
- **Canada Branch**
Montréal, Quebec, Canada
- **Plants**: Kentucky, Michigan

Daifuku Automotive America Corporation

3 ■

- **Main Office & Plant**
Reynoldsburg, OH, U.S.A.
- **Carlisle Forging Plant**
South Carolina
- **Other offices**
Indiana, Kentucky, Michigan, Tennessee

Daifuku Cleanroom America Corporation

▲

- **Main Office**: Chandler, AZ, U.S.A.
- **Austin Office**: Texas
- **Oregon Test Center & Office**: Oregon

Daifuku Intralogistics America Corporation

5 ●

- **World Headquarters**
Hobart, IN, U.S.A.
- **Innovation Center**: Illinois
Florida, Kentucky, Michigan, Utah
- **Other offices**
Florida, Kentucky, Michigan, Utah
- **Plants**: Indiana, Texas

Daifuku Services America Corporation

● ▲

Carrollton, TX, U.S.A.

Contec Americas Inc.

6 ♣

Melbourne, FL, U.S.A.

Daifuku Canada Inc.

■

Mississauga, Ontario, Canada

Daifuku Manufacturing Canada Corporation

7 ● ● ● ▲

Hamilton, Ontario, Canada

Daifuku de México, S.A. de C.V.

■

Querétaro, Qro., México

欧州

Daifuku Europe GmbH

●

- **Main Office**
Moenchengladbach, Germany
- **Denmark Branch**: Copenhagen, Denmark
- **Sweden Branch**: Helsingborg, Sweden
- **UK Branch**: Milton Keynes, U.K.

Daifuku Automotive U.K. Ltd.

■

Milton Keynes, U.K.

Daifuku Airport UK Ltd.

8 ▲

- **Main Office**: Hull, U.K.
- **France Branch**: Alfortville, France

Daifuku Airport Netherlands Group B.V.

▲

Hoofddorp, The Netherlands

アジア・オセアニア

Daifuku Australia Pty Limited

▲

Mascot, NSW, Australia

Daifuku Service Australia Pty Limited

● ▲

Mascot, NSW, Australia

大福(中国)有限公司

中国・上海

大福(中国)自動化設備有限公司

9 ■

- **本社・工場**: 中国・江蘇省常熟
- **分公司**: 北京、長春、重慶、広州、天津、武漢
- **事務所**: 南沙、泰達、常熟、鄭州

大福(中国)物流設備有限公司

10 ●

- **本社・工場**: 中国・上海松江
- **分公司**: 北京、重慶、広州、南京、深圳、武漢、無錫
- **事務所**: 成都、上海虹橋、寧波、蘇州、天津、西安

大福自動搬送設備(蘇州)有限公司

11 ▲

- **本社・工場**: 中国・江蘇省蘇州
- **分公司**: 北京、成都、杭州、青島、蘇相研究、上海、深圳、武漢、西安

康泰克(上海)信息科技有限公司

♣

- **本社**: 中国・上海
- **事務所**: 北京

Daifuku India Private Limited

■

- **Main Office**: Haryana
- **Other offices**: Bengaluru, Gujarat

Daifuku Manufacturing India Private Ltd.

12 ■

- **Headquarters and Plant**: Karnataka, India

Daifuku Intralogistics India Private Limited

13 ●

- **Main Office & Plant**: Hyderabad, India
- **Mumbai Office**: Mumbai

P.T. Daifuku Indonesia

● ■

- **Main Office**: Jakarta, Indonesia
- **Deltamas Office**: Bekasi

Daifuku Korea Co., Ltd.

14 ● ■

- **Main Office / R&D Center**
Incheon, Korea
- **Incheon Plant**: Incheon

Clean Factomation, Inc.

15 ▲

- **Main Office**
Gyeonggi-do, Korea
- **Asan Plant**
Chungcheongnam-do

Hallim Machinery Co., Ltd.

16 ◆

- **Main Office & Plant**
Gyeonggi-do, Korea
- **Other offices**
Busan, Daegu, Daejeon, Gwangju, Seoul

Daifuku Airport Malaysia Sdn. Bhd.

17 ▲

- **Main Office**
Kuala Lumpur, Malaysia
- **Factory**
Negeri Sembilan

Daifuku (Malaysia) Sdn. Bhd.

● ■

Selangor D.E., Malaysia

Daifuku Oceania Limited

● ▲

- **Main Office**: Auckland, NZ
- **Other offices**
Australia, Canada, Malaysia

Daifuku Mechatronics (Singapore) Pte. Ltd.

● ▲

Techplace 1, Singapore

Singapore Contec Pte. Ltd.

♣

Techplace 1, Singapore

台灣大福高科技設備股份有限公司

18 ● ▲

- **本社・工場**: 台湾・台南
- **支社**: 新竹
- **工場**: 台中

台灣康泰克股份有限公司

19 ♣

台湾・新北

Daifuku (Thailand) Limited

20 ● ■

- **Main Office & Plant (Pinthong)**
Chonburi, Thailand
- **Bangkok Office**: Bangkok
- **Chonburi Plant**: Chonburi

Daifuku Intralogistics Vietnam Company Limited

●

- **Main Office**: Ho Chi Minh City, Vietnam
- **Hanoi Office**: Hanoi

当社グループのウェブサイト上で財務・非財務情報を公開しています。(下表)
www.daifuku.com/jp

IR情報

www.daifuku.com/jp/ir

コーポレートガバナンス

www.daifuku.com/jp/ir/policy/governance

サステナビリティ

www.daifuku.com/jp/sustainability



区分	名称	言語	
		日	英
会社情報	会社案内	✓	✓
サステナビリティ	サステナビリティ報告	✓	✓
IR情報	決算短信/決算説明会資料	✓	✓
	有価証券報告書	✓	✓
	株主総会招集通知	✓	✓
	株主通信	✓	✓
	ダイフレポート(統合報告書)	✓	✓

区分	名称	言語	
		日	英
コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンス報告書	✓	✓
	ダイフクグループコーポレートガバナンスに対する基本方針	✓	✓
	コーポレートガバナンス・コードの各原則に係る当社の取り組み状況	✓	✓

株主総会招集通知



ダイフレポート



サステナビリティ報告



業界情報

当社グループが加入する主な団体

日本物流システム機器協会 (JIMH)	www.jimh.or.jp
日本ロジスティクスシステム協会 (JILS) ・年に一度「物流システム機器生産出荷統計」を調査公表しています。 (本統計は、輸入品やサービスを含みません)	www1.logistics.or.jp

世界最大級のマテハン・ロジスティクス体験型総合展示場「日に新た館」。自社で開発・製造した最先端のマテハンシステムのほか、ロジスティクス関連企業の製品も展示しています。

1994年に開館。これまで、世界約90の国と地域から延べ約55万人のお客さまにご来館いただいています。最新システム・機器の大規模な入れ替えを行い、2022年6月にリニューアルオープンしました。

専任スタッフが製品の機能・特長のほか、納入事例や現場での活用方法などをご紹介いたします(日本語、英語、中国語、韓国語に対応)。

日に新た館

〒529-1692

滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225

ダイフク滋賀事業所内

アクセス
JR米原駅、JR近江八幡駅から
シャトルバス(要予約)



施設概要

- ・建物面積 6,049m²
- ・延べ床面積 19,482m²
- ・開館日 月～金曜日(祝祭日を除く)
- ・開館時間 AM9:00～PM4:30
- ・見学時間 AM9:50～PM3:15(時間帯によるコース制)
(注)開館日、開館時間、見学時間は変更になる場合があります。
- ・お申込み ウェブサイトをご利用ください(完全予約制)。
www.daifuku.com/jp/showroom/hiniaratakan
(注)会社・団体を対象とした展示場のため、個人、同業者の来館はご遠慮いただいています。



小学校の社会科見学先としても採用いただいています。

